

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	2013年9月30日（当初設定日）から2021年1月14日までです。
運用方針	投資信託証券への投資を通じて主に日本企業の株式に投資（一部ショート・ポジションを保有します）するとともに、円売り米ドル買いの取引を行うことで、信託財産の成長を図ることを目的に運用を行います。
主要投資対象	①ピクテ・グローバル・セレクション・ファンドー日本株オポチュニティーズ・ファンド受益証券 ②ピクテ・ショートターム・マネー・マーケットUSD投資証券
運用方法	①投資信託証券への投資を通じて、主に日本企業の株式に投資（一部ショート・ポジションを保有します）を行うとともに円売りドル買いの取引を行い、株式からの売買益および為替差益の獲得を目指します。 ②株式の実質組入比率は、原則として高位を保ちます。
主な投資制限	①投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ②投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託の受益証券以外の有価証券への直接投資は行いません。
分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。



PICTET

ピクテ日本厳選株  
アルファ・プラス  
米ドルコース  
愛称：日本株DX(デラックス)

償還運用報告書(全体版)

第15期

償還日：2021年1月14日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「ピクテ日本厳選株アルファ・プラス 米ドルコース」は、2021年1月14日に償還となりました。ここに運用状況と償還の内容をご報告申し上げます。

償還までのご愛顧に対し厚く御礼申し上げます。

ピクテ投信投資顧問株式会社

東京都千代田区丸の内2-2-1

お問い合わせ窓口

投資信託営業部

電話番号 03-3212-1805

受付時間：委託者の営業日の午前9時から午後5時まで

ホームページ：www.pictet.co.jp

## ■最近5期の運用実績

決算期	基準価額			参考指数		投資信託 証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率		期中 騰落率		
	円	円	%		%	%	百万円
11期(2019年1月15日)	13,743	0	△14.8	14,326	△14.1	94.3	1
12期(2019年7月16日)	14,662	0	6.7	14,831	3.5	95.2	1
13期(2020年1月15日)	16,711	0	14.0	16,792	13.2	95.2	1
14期(2020年7月15日)	14,771	0	△11.6	14,779	△12.0	95.4	1
(償還時)	(償還価額)						
15期(2021年1月14日)	16,595.71			12.4	17,069	15.5	- 0.724217

(注) 参考指数は、米ドル換算したTOPIXの収益率に米ドルと円との金利差相当を加算して委託者が独自に算出したものを設定日(2013年9月30日)を10,000として指数化したものです。

## ■当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指数		投資信託証券 組入比率	
		騰落率		騰落率		
(期首)	円	%		%	%	
2020年7月15日	14,771	-	14,779	-	95.4	
7月末	14,216	△ 3.8	14,172	△ 4.1	95.4	
8月末	14,663	△ 0.7	14,883	0.7	94.9	
9月末	15,267	3.4	15,443	4.5	95.1	
10月末	14,797	0.2	14,836	0.4	95.0	
11月末	16,536	11.9	16,343	10.6	95.6	
12月末	16,947	14.7	16,582	12.2	95.8	
(償還時)	(償還価額)					
2021年1月14日	16,595.71		12.4	17,069	15.5	-

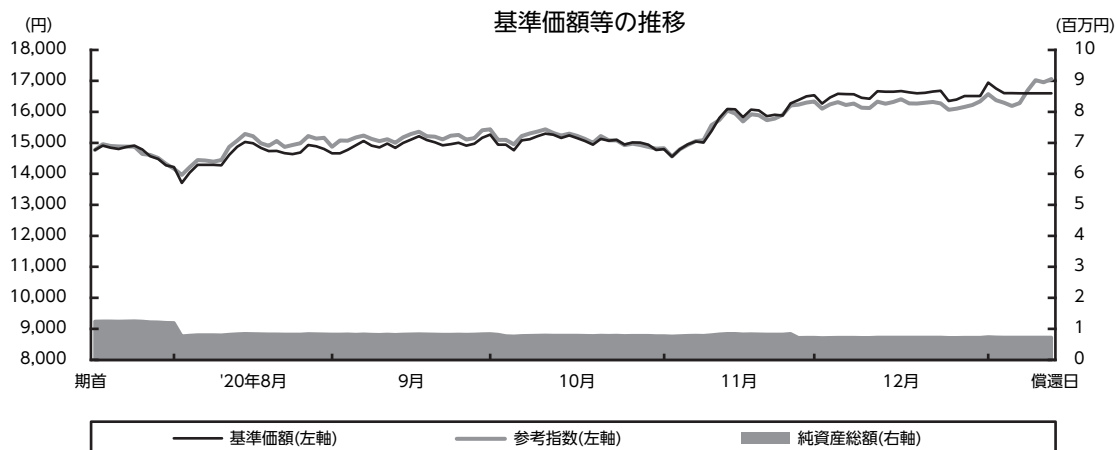
(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) 参考指数は、米ドル換算したTOPIXの収益率に米ドルと円との金利差相当を加算して委託者が独自に算出したものを設定日(2013年9月30日)を10,000として指数化したものです。

## ■当期中の運用状況 (2020年7月16日から2021年1月14日まで)

### 1. 基準価額等の推移

当期の基準価額は、12.4%の上昇となりました。



※参考指数は期首の基準価額に合わせて指数化しています。

### ◇主な変動要因

- 上昇▲ ・実質的に組入れている株式の価格が上昇したこと  
下落▼ ・円に対して米ドルが下落したこと

### 2. 投資環境

- ・当期の日本株市場は、新型コロナウイルスのワクチン開発進展・接種開始による経済活動正常化および景気・企業業績回復への期待の高まりを背景に上昇しました。前半は、米中の対立激化、欧米での新型コロナ感染再拡大への懸念の高まり、米大統領選を巡る不透明感等が重荷となった一方、景気・企業業績の回復期待に加え、新型コロナの治療薬・ワクチン開発進展も支えにじり高歩調で推移しました。後半は11月以降、米大統領選での民主党バイデン氏当確による先行き不透明感の後退、米製薬大手ファイザーが新型コロナウイルスのワクチンで高い有効性を示すデータを公表したことによるワクチンの早期実用化および経済活動正常化への期待の高まり、良好な国内企業の7-9月決算、米バイデン次期政権による大型経済対策への期待などを背景に上昇基調を強め、TOPIXは2018年1月以来およそ3年ぶりの高値圏で終了となりました。
- ・当期の為替市場は、期首比で3円強の円高・ドル安となる1ドル=103円台後半で終了しました。欧米での深刻な新型コロナウイルスの感染再拡大、米連邦準備制度理事会（FRB）による低金利政策の長期化観測、米バイデン新政権による大規模な経済対策による米財政悪化懸念などを背景に緩やかながら円高・ドル安基調で推移しました。

### 3. 組入状況

投資信託証券への投資を通じて主に日本企業の株式に投資するとともに、円売り米ドル買いの取引を行うことで、信託財産の成長を図ることを目的に運用を行ってまいりました。

投資先ファンド	組入比率		当期騰落率
	期首	償還日	
PGSF－日本株オポチュニティーズ・ファンド	92.9%	－	+16.7%
ピクテ－ショートターム・マネー・マーケットUSD	2.5%	－	-3.8%

(注)「PGSF」は「ピクテ・グローバル・セレクトション・ファンド」の略称です。(以下同じ)「ピクテ－ショートターム・マネー・マーケットUSD」の騰落率は円換算して算出しています。

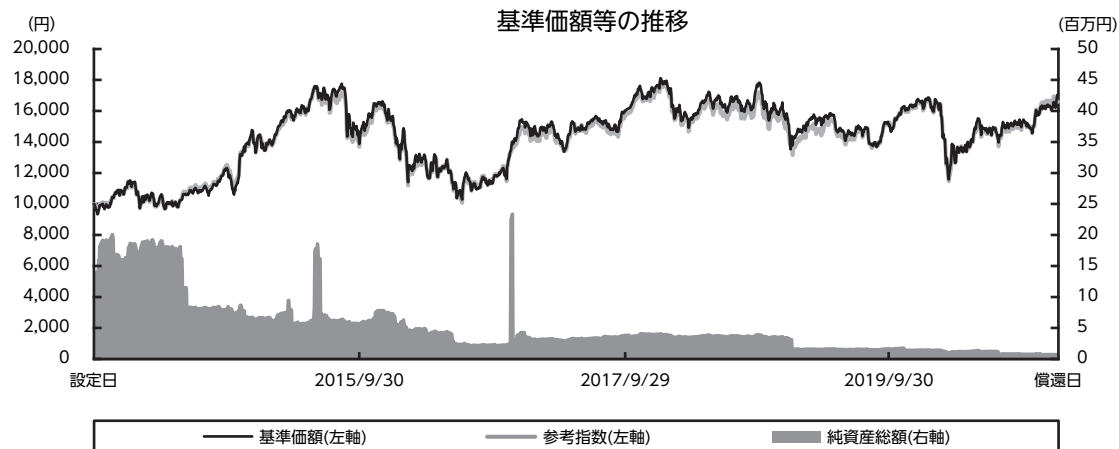
株式の実質組入比率を高位に保つため、「PGSF－日本株オポチュニティーズ・ファンド」の組入比率を高位に維持しました。

なお、償還に向けて投資先ファンドを全て売却し、償還日現在においては有価証券の組入れはありません。

## ■設定以来の運用状況 (2013年9月30日から2021年1月14日まで)

### 1. 基準価額等の推移

設定以来の基準価額は、66.0%の上昇となりました。



### ◇主な変動要因

- 上昇↑ ・実質的に組入れている株式の価格が上昇したこと
- 上昇↑ ・円に対して米ドルが上昇したこと

## 2. 投資環境

### 第1期 決算日：2014年1月15日

- ・日本株式市場は、内外経済指標の改善、5年ぶりの円安ドル高水準となる1ドル=105円台への円安進行、デフレ脱却、景気・企業業績の回復・拡大への一段の期待の高まりに加え、米量的金融緩和縮小の決定を受けた米金融政策の先行き不透明感後退、史上最高値更新の米株高などを追い風に上昇しました。
- ・為替市場では、米経済指標の改善、米量的金融緩和縮小観測の高まりおよび12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）でのその決定、日銀の追加金融緩和観測などを背景に、円に対して米ドルが上昇しました。

### 第2期 決算日：2014年7月15日

- ・日本株式市場は、中国の景気・金融システムに対する警戒感の高まり、ウクライナ情勢の緊迫化、消費増税の国内景気への影響懸念、日銀による追加金融緩和期待の後退などを背景に下落した後、改善を示す米国および中国の経済指標を受けた世界的な景気不透明感の後退、高値更新を続ける米国株に対する出遅れ感、消費増税による景気への影響懸念の後退、政府による成長戦略や年金基金の買いによる需給好転への期待などを背景に、上昇しました。
- ・為替市場では、アルゼンチンペソ急落をきっかけとした新興国経済への不安の高まり、米長期金利の低下、ウクライナ情勢の緊迫化などを背景に、円に対して米ドルが下落しました。

### 第3期 決算日：2015年1月15日

- ・日本の株式市場は、日銀による追加金融緩和、米国の順調な景気回復および株高、為替市場における2007年以来となる1ドル=121円台への急速な円安ドル高進行、堅調な企業業績などを背景に上昇しました。
- ・為替市場では、FRBによる量的金融緩和の終了、その一方での日銀による追加金融緩和、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の新運用比率発表などを背景に、円に対して米ドルなどが上昇しました。

### 第4期 決算日：2015年7月15日

- ・日本株市場は、堅調な企業業績、資本効率向上および株主還元拡充に向けた企業の積極姿勢、為替市場における2002年以来となる1ドル=125円台への急速な円安ドル高進行、米欧株式市場に対する出遅れ感などを背景に上昇しました。
- ・為替市場では、堅調な米経済指標、イエレンFRB議長が年内の利上げ開始が適切との見解を示したことなどを背景に円に対して米ドルが上昇しました。

### 第5期 決算日：2016年1月15日

- ・日本株市場は、中国の一段の景気減速、下げ止まらない原油価格、地政学リスクの高まりなどを受けた世界経済の先行き懸念、世界的なリスク回避姿勢の強まり、それに伴う円高進行などから下値模索となり下落しました。
- ・為替市場では、FRBが約9年半ぶりの利上げを決定すると円売り・ドル買いが一巡し、その後は世界的にリスク回避姿勢が強まるなか、対ドルで円高が進行しました。

第6期 決算日：2016年7月15日

- ・日本株市場は、世界経済の減速懸念、欧州の一部銀行の信用不安、地政学的リスクの高まり、英国の欧州連合（EU）離脱への警戒感などを背景とする世界的なリスク回避姿勢の強まり、それらに伴う大幅な円高進行などから下落しました。
- ・為替市場では、世界的なリスク回避姿勢の強まり、米国の早期利上げ観測の後退などを背景に大幅に円高が進行しました。

第7期 決算日：2017年1月16日

- ・日本株市場は、トランプ次期米大統領の経済政策への期待や為替市場での大幅な円安・ドル高進行などを背景に上昇しました。石油輸出国機構（OPEC）による減産合意、FRBによる利上げ決定も好感されました。
- ・為替市場では、米国の堅調な景気指標、トランプ次期米大統領の掲げる財政支出拡大や大幅減税への期待などから米長期金利が上昇するなか、大幅に円安・ドル高が進行しました。

第8期 決算日：2017年7月18日

- ・日本株市場は、世界的な景気の回復基調・株高、日本企業の業績改善・拡大への期待などを背景に上昇しました。
- ・為替市場では、1ドル＝108円台まで円高が進行する場面が見られたものの、日米欧の金融政策の方向性の違いなどから円安・ドル高基調となり1ドル＝112円近辺まで戻して終了となりました。

第9期 決算日：2018年1月15日

- ・日本株市場は、堅調な世界景気、日本企業の好調な業績への期待の高まりなどを背景に上昇しました。
- ・為替市場では、円・ドル相場が米利上げ観測の後退、北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりなどを背景に1ドル＝110円台半ばと前期末比1円強の円高・ドル安水準で終了しました。

第10期 決算日：2018年7月17日

- ・当期の日本株市場は、米国の保護主義的な通商政策・米中の貿易摩擦激化への懸念の高まりを背景に下落しました。
- ・当期の為替市場は、1ドル＝110円台でスタートし104円台まで円高が進行する場面が見られたものの、その後は米長期金利上昇などを背景に円安・ドル高基調となり1ドル＝112円台と前期末比では若干の円安方向に振れて終了しました。

第11期 決算日：2019年1月15日

- ・当期の日本株市場は、米中貿易摩擦の激化、世界的な景気減速懸念などを背景に大幅下落となりました。
- ・当期の為替市場は、市場のリスク回避姿勢が高まるなか円高・ドル安が進行し前期末比4円ほど円高となる1ドル＝108円台で終了しました。

第12期 決算日：2019年7月16日

- ・当期の日本株市場は、米中の貿易摩擦問題に引き続き振られる展開ながら、米欧の利下げ観測の高まり、米株高などを支えに上昇となりました。
- ・当期の為替市場は、米国の利下げ観測の高まり、米中貿易摩擦問題の再燃や地政学リスクを意識した市場のリスク回避姿勢の高まりを背景に円高・ドル安が進行し前期末比では若干の円高となる1ドル=108円台前半で終了しました。

第13期 決算日：2020年1月15日

- ・当期の日本株市場は、米中通商協議の進展および企業業績の底入れ・改善への期待の高まりを背景に大幅上昇となりました。
- ・当期の為替市場は、米中通商協議の進展、米中对立緩和への期待を背景とするリスク回避姿勢の後退に加え、米国の底固い景気動向、米株高なども支えに円安・ドル高基調で推移し、前期末比で2円ほど円安となる1ドル=110円近辺で終了しました。

第14期 決算日：2020年7月15日

- ・当期の日本株市場は、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）による急激な景気・企業業績悪化への懸念を背景に下落となりました。
- ・当期の為替市場は、FRBによる金融緩和策の長期化見通し、米中对立への懸念等を背景に前期末比で3円ほど円高・ドル安となる1ドル=107円近辺で終了しました。

第15期 償還日：2021年1月14日

- ・当期の日本株市場は、新型コロナウイルスのワクチン開発進展・接種開始による経済活動正常化および景気・企業業績回復への期待の高まりを背景に上昇しました。
- ・当期の為替市場は、期首比で3円強の円高・ドル安となる1ドル=103円台後半で終了しました。

### 3. 組入状況

投資信託証券への投資を通じて主に日本企業の株式に投資（一部ショート・ポジションを保有します）するとともに、円売り米ドル買いの取引を行うことで、信託財産の成長を図ることを目的に運用を行ってまいりました。

株式の実質組入比率を高位に保つため、「PGSF - 日本株オポチュニティーズ・ファンド」の組入比率を高位に維持しました。

なお、償還に向けて投資先ファンドを全て売却し、償還日現在においては有価証券の組入れはありません。

### 4. 収益分配金

設定以来の収益分配は、基準価額の水準および市況動向等を勘案し、見送りとさせていただきます。

## ■ 1万口（元本10,000円）当たりの費用明細

項目	当期 (2020年7月16日~2021年1月14日)		項目の概要
	金額	比率	
平均基準価額	15,404円	—	期中の平均基準価額（月末値の平均値）です。
(a) 信託報酬 (投信会社)	95円 (30)	0.618% (0.193)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ・ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、各種情報提供等、基準価額の算出等の対価 ・購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続等の対価 ・ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(64)	(0.414)	
(受託会社)	(2)	(0.011)	
合計	95	0.618	

(注1) 上記の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、設定・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、各項目毎に小数第3位未満は四捨五入しています。

(注3) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

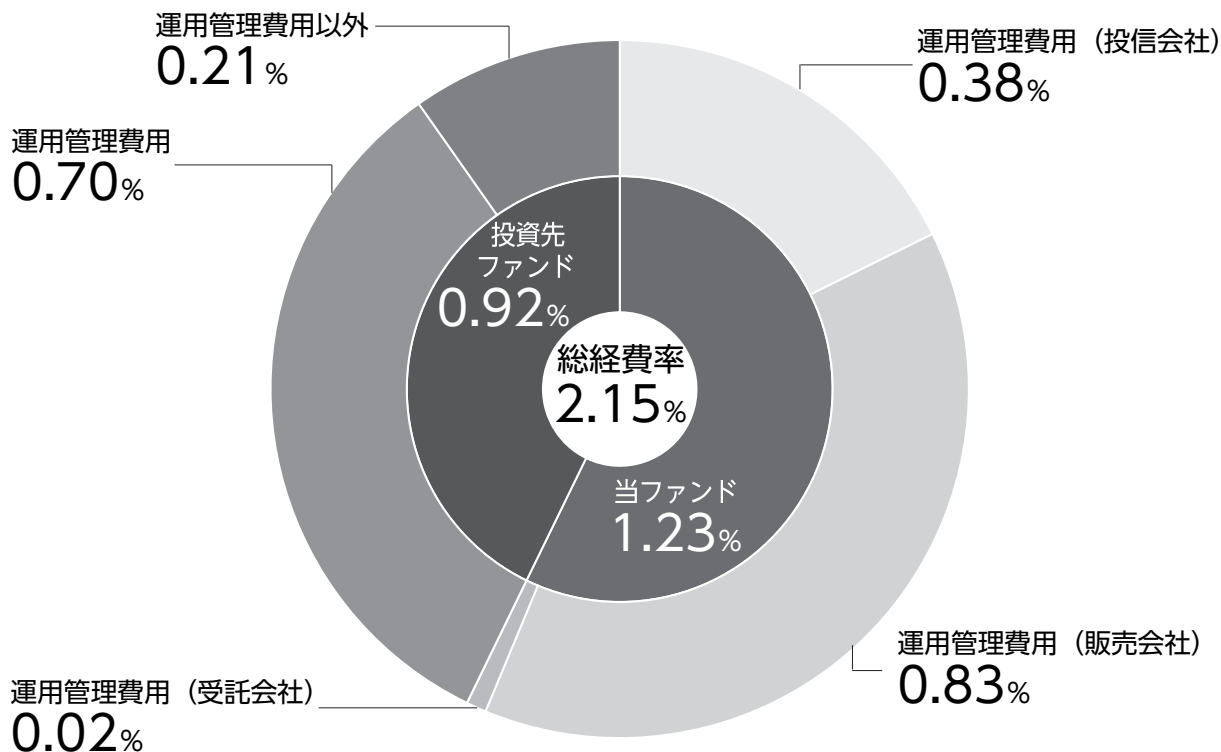
(注4) 各金額の円未満は四捨五入しています。



## (参考情報)

### ○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.15%です。



総経費率 (①+②+③)	2.15%
①当ファンドの費用の比率	1.23%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.70%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.21%

(注1) ①の費用は、「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券です。

(注5) ①の費用は、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) ③その他費用の比率が入手できない投資信託証券の場合、②運用管理費用の比率に総経費率を集計しています。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■**当期中の売買および取引の状況**（2020年7月16日から2021年1月14日まで）

投資信託受益証券、投資証券

			買付		売付	
			口数	金額	口数	金額
外国	邦貨建	ピクテ・グローバル・セレクトション・ファンドー 日本株オポチュニティーズ・ファンド	□ 1	千円 24	□ 68	千円 1,259
	米ドル建	ピクテ・ショートターム・マネー・マーケットUSD	□ -	千米ドル -	□ 1	千米ドル 0.28572

(注1) 金額は受渡代金です。

(注2) 単位未満は切り捨てています。ただし、単位未満の場合は小数で記載しています。

■**利害関係人との取引状況等**（2020年7月16日から2021年1月14日まで）

該当事項はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人をいいます。

■**自社による当ファンドの設定・解約状況**（2020年7月16日から2021年1月14日まで）

該当事項はありません。

■**特定資産の価格等の調査**（2020年7月16日から2021年1月14日まで）

該当事項はありません。

■**組入資産の明細**（2021年1月14日現在）

償還日現在、有価証券の組入れはありません。

## ■投資信託財産の構成 (2021年1月14日現在)

項目	償還時	
	評価額	比率
コール・ローン等、その他	千円 729	% 100.0
投資信託財産総額	729	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

## ■資産、負債、元本および償還価額の状況

(2021年1月14日現在)

項目	償還時
(A)資産	729,315円
コール・ローン等	729,315
(B)負債	5,098
未払信託報酬	5,097
未払利息	1
(C)純資産総額(A-B)	724,217
元本	436,388
償還差益金	287,829
(D)受益権総口数	436,388口
1万口当たり償還価額(C/D)	16,595円71銭

<注記事項(当運用報告書作成時点では、監査未了です。)>  
(貸借対照表関係)

(注1) 期首元本額	839,399円
期中追加設定元本額	17,947円
期中一部解約元本額	420,958円
(注2) 1口当たり純資産額	1.659571円

## ■損益の状況

当期(自2020年7月16日 至2021年1月14日)

項目	当期
(A)配当等収益	△ 12円
支払利息	△ 12
(B)有価証券売買損益	84,366
売買益	120,997
売買損	△ 36,631
(C)信託報酬等	△ 5,097
(D)当期損益金(A+B+C)	79,257
(E)前期繰越損益金	21,644
(F)追加信託差損益金	186,928
(配当等相当額)	( 189,975)
(売買損益相当額)	(△ 3,047)
償還差益金(D+E+F)	287,829

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

## ■投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2013年9月30日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2021年1月14日		資産総額	729,315円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減又は追加信託	負債総額	5,098円
受益権口数	13,714,014口	436,388口	△13,277,626口	純資産総額	724,217円
元本額	13,714,014円	436,388円	△13,277,626円	受益権口数	436,388口
				1万口当たり償還金	16,595.71円
毎計算期末の状況					
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金額	分配率
第1期	16,299,323円	18,008,334円	11,049円	0円	0.0000%
第2期	7,361,716	8,102,165	11,006	0	0.0000
第3期	4,782,204	6,439,333	13,465	0	0.0000
第4期	3,675,423	6,128,664	16,675	0	0.0000
第5期	4,008,792	5,539,144	13,817	0	0.0000
第6期	2,198,110	2,523,071	11,478	0	0.0000
第7期	2,378,637	3,468,176	14,581	0	0.0000
第8期	2,211,423	3,395,847	15,356	0	0.0000
第9期	2,230,147	3,909,127	17,529	0	0.0000
第10期	2,308,632	3,725,128	16,136	0	0.0000
第11期	1,155,458	1,587,899	13,743	0	0.0000
第12期	1,082,170	1,586,630	14,662	0	0.0000
第13期	879,224	1,469,275	16,711	0	0.0000
第14期	839,399	1,239,909	14,771	0	0.0000

### <償還金のお知らせ>

1万口当たり償還金 (税込み)	16,595円71銭
-----------------	------------

### <お知らせ>

該当事項はありません。